

企業からの寄付を子どもの居場所に AI で適切に分配するアプリ

「うむゆい」の開発と実証実験の開始について

森根 逸心 (工学部 4 年次)

陸 焯 (理工学研究科 博士前期課程 1 年次), 盛 拓矢 (〃 2 年次), 高坂 空男 (〃 修了生)

伊禮 司 (理工学研究科 博士後期課程 3 年次)

當間 千夏 (工学部 元非常勤職員)

富田 杏理 (おきなわこども未来ランチサポート 代表)

松岡 真功 (株式会社 BlueMeme 代表取締役), 中橋 勇太 (〃 広報担当)

山口 光士 (株式会社 openmodels 取締役), 久田 尚志 (〃 アカウントマネージャー)

殿岡 裕樹 (研究企画室 教授), 照屋 愛子 (〃 特命助教)

本村 真 (人文社会学部 教授), 宮田 龍太 (〃 助教)

【概要】令和 4 年度 SDGs 社会課題解決型研究再チャレンジプロジェクトとしてスタートしたこの企画は、おきなわこども未来ランチサポートの富田杏理代表が今まで全て一人で行っていた業務を DX 化することで寄付の受入体制を強化し、県内の子どもの貧困対策を産学連携のもとで着実に推進することを目的としています。企業から寄贈された食料品を子どもの居場所に確実に届けるために開発したこのアプリは、「想い(うむい)を結ぶ」という意味で「うむゆい」と命名されました。本アプリはローコードでアジャイル開発されており、基盤は株式会社 BlueMeme より提供頂きました。



図 1 : 本プロジェクトで開発した web アプリ「うむゆい」の TOP 画面. このアプリは、企業から寄贈されたパンや麺類といった食料品の受取を希望する子どもの居場所にそれぞれ何個配るか、AI が提案をサポートする機能を持っています.

企業からの寄付を 子どもの居場所に適切に配る AIアプリ「うむゆい」の開発

森根 逸心¹, 陸 焯¹, 盛 拓矢¹, 高坂 空男¹, 伊禮 司¹, 當間 千夏¹,
富田杏理⁴, 松岡 真功⁵, 中橋 勇太⁵, 山口 光士⁶, 久田 尚志⁶,
殿岡 裕樹³, 照屋 愛子³, 本村 真², 宮田 龍太¹

1. 琉球大学工学部, 2. 琉球大学人文社会学部, 3. 琉球大学研究企画室,
4. おきなわ子ども未来ランチサポート, 5. 株式会社BlueMeme, 6. 株式会社openmodels



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

bluememe
MODEL & DESIGN YOUR BUSINESS

openmodels

令和4年度SDGs社会課題解決型研究再チャレンジプロジェクト

【発表次第】

1. プロジェクトの概要
2. 開発したAIアプリのデモンストレーション
3. 株式会社BlueMeme・openmodelsの貢献



令和4年度SDGs社会課題解決型研究再チャレンジプロジェクト

【背景】 おきなわこども未来ランチサポート

- 企業や一般の方々からの寄付（食料品や生活用品）を子どもの居場所に提供し、そこを通じて子どもたちへ届ける活動を実施中



<https://www.lun-sup.com/>

【目的】 AIアプリを開発し、寄付の受入体制を強化

- 各居場所に各物資をいくつ配るか、今まで富田代表が一人で行っていた業務をAIが学習し、サポートするアプリを開発



週3回子ども食堂や子どもの居場所のみなさんへ食料品などをお渡し

毎週月水金の朝が配布活動日。オキコ様やぐしけん様からご提供いただいている菓子パンをはじめ、企業のみなさまからいただいたり応援して下さる方々からの寄付金などで購入した食料品や生活用品などを子ども食堂や子どもの居場所、生活支援団体運営者のみなさまへお渡ししています。

<https://www.lun-sup.com/service>

【成果】 本プロジェクトで開発したAIアプリ

- アプリのデモンストレーションは、この後すぐ！



【データ】 今回ターゲットにした物資 5 種

- 「開封したらすぐに食べられるもの」を優先
 - 昨年度の記録から、富田代表がどうやって分配していたか、AIが学習

1. パン



2. 飲み物



3. お菓子



4. めん



5. スープ



